

貴重な山野草学ば

郷土研究サークル「春の研修会」

東田川文化記念館・郷土研究サークルの「春の研修会」が10日、指導林業士・上林幹夫さんを講師に、添川の山林の山野草や孟宗林について学びました。

シラネアオイの花は終わりましたが、クマガイソウが咲き誇っています。

エビネは種ごとに皆違う花が咲き、人も皆顔が違うのと同じことです。

絶滅危惧種のシメシヤガ、ウラシマソウやシユンランなど珍しい



ものがいっぱいです。（写真提供・記念館）

ワクチン予約の電話が つながらない！

鶴岡市では新型コロナウイルスの高齢者への集団接種の予約が4月28日から開始され、予約受付に電話がつながらないと苦情が相次ぎました。

4月30日に一般枠がすべて埋まり、受付を中断。枠を拡充し5月10日から再開しましたが、翌日埋まりました。

ワクチン供給が遅れる管政権の責任が根本問題ですが、先着順にしたことによる予約殺到で、高齢者に大きな心労を与えました。

計画的に、地区ごとに接種券の郵送を小出しにし、届いた人から受付を行えば、混乱を避けることができたと思われま。



月山とわたし 4

加藤貞雄（山王町）

（3）月山にまたがって

私が初めて月山に登ったのは高校2年の夏休み（昭和24年）で、同郷の友人2人が藤島から歩いて山頂まで登り、帰って来た。

若さの至りと言うべきか。暗い山道を一晩中歩き続け、山小屋の土の上に敷いたササの葉のガサガサする寝床と、極度の疲労感だけが強烈な記憶として残っている。

それ以来幾度も登ったが、いつも人の後をあぐせくと追い、山頂に辿り着くや、時間や天候が気になってせわしく降りてきたように思う。

92年の7月、念願の月山登山をした。その時のスケッチとメモを手がかりに思い出して綴る。

■弥陀ヶ原をゆく

食料と写生用具と、そのために求めておいたシエラフなどをリュックに詰めて、早朝、月山めがけて車を走らせた。

5合目付近のブナ林が印象的だった。8合目の駐車場にはすでに多くの車が並んでいた。重いリュックを背負って、弥陀ヶ原の湿原地帯の木の遊歩道を歩く。広がる草原と散在する小さな池沼、一帯に咲く花が心を和ませる。

長年の勤務から解放されたあかつきには、気の赴くままにゆつくりと月山に登り、野宿でもして山の自然にひたり、心ゆくまで絵を描いてみたい、そして40年の来し方を顧みようとひそかな想いを温めてきた。

定年退職した年（19

道の際らによつてスケッチする。そばを通る人が立ち止まって私に声をかける。歩道が終わって巨岩の積み重なる急坂（無量坂）に登りきったところで振り向くと、下方に広がる緑の草原と咲き競う橙黄色のニッコウキスゲ、光る池沼群など、その眺望に息をのむ。

岩場の陰でまたスケッチをする。はるか遠く、高い位置に鳥海山が山肌に残雪を描いていた。それも絵にされる。（つづく）



近年、トラベル会社や月山ビジターセンター等の登山ツアーでも参加者を募るようになってきた「庄内海岸アルプス」。

高館山方面から歩くと間もなく、昔、加茂方面から大山に抜けた「加茂古道」の峠に差し掛かる。

荒倉山まではおよそ4時間かけて歩く事になるが、途中の起伏はなだらかで歩きやすい。展望を楽しむというより、草花や木々を眺めながらの歩きとなる。

行程が長いので私は水沢駅まで電車で行き、小説の神様と呼ばれた横道利一が歩いて「思索の道」と呼んだ、荒倉山方面に一直線に伸びる道を好んで歩く事が多い。

荒倉山(標高・307m)は、藤島から見て南西方向に丁度お椀を伏せたような山容で、農作業を農耕馬に頼っていた時代は、「東の羽黒山」に対して「西の羽黒山」として信仰を



作家・横光利一の「夜の靴」に出てくる思索の道(荒倉山の遠景)

集めていたそうだった。

しかし、馬を見るのも珍しくなった現在、荒倉神社はすっかり寂れ、私自身訪れる人を見かけたことはない。

水沢駅から北に少し歩いて、水沢化学の横道を歩いていくと、山口集落に突き当たる。

その公民館前には名作「旅愁」等で知られる小説の神様・横道利一の文学碑が立つて

いる。

自身は庄内には縁は無かったようだが、奥さんが鶴岡の出身という事から、戦争末期になり東京から疎開で来られ、西目地区の山口集落に間借りをして4か月ばかり暮らしていた。

その時に書かれたのが小説「夜の靴」として残っている。

横道を大家作家だと知る村人は少なく、親しい知人としていないわけでは、

荒倉山に登る途中の峠「鞍乗り」まで歩いたり、夜は当時の知識人であった東源寺の和尚さんと話し込んで過ごしたという。(つづく)



世界の国々 アメリカ⑤ トリクルダウンと「団結権 保護法案」 青山崇

これまで、アメリカの負の面を述べてきたが、今回は、アメリカの変わりつつある面を紹介する。

アベノミクスを盛んに言いふらした安倍前首相は、今はどう言うのだろうか。

「企業(富裕層)が儲かれば労働者も潤う」というトリクルダウンは世界中に広まった。日本では安倍前首相

共和党支持者の72%、民主党支持者の83%が「そう思う」と答えている。

先の号でものべたが、米国の元労働長官が、アメリカ上院の公聴会で、「貧富の格差は労働組合の組織率や力を強めることだ」と公言している。

この状況をうけて労働組合をつくる権利を強化する「団結権保護法案」が、下院で、19票差で可決され上院で審議されている。

この法案は、1つ、



虚しい仕事

柿畑の1回目の草刈りの時期になった。目立つ花はタンポポなんだが、全て西洋タンポポで増えすぎるのが嫌だから、根から抜き取っている。一番多い色は、紫色でカキドオシと紫咲鷲こけだ。なぜか白鷺が少ない。

▲こけと名がつく程だから、丈は機械にかからない位だ。同じぐらいの丈の黄色がへびいちご。他で名前を知っているのは、花はまだないが、ヨモギ・アザミ・ノビルに姫踊り子草・セリ・みつば。

違いがわからないがハルジオンとヒメジオン。で、他は名前を知らないから雑草という事に。▲草というものは不思議なものだ。今はそれと気づくかけらもないが、時がくれば花が咲くんだ。うらやましいぜ。「俺の時代はきつと

労働組合結成や団体交渉を行う労働者に報復する雇用主に罰則を科すこと、

2つ、労組結成の動きに雇用主が妨害、干渉することの禁止が主な内容である。



(バイデン大統領)

来る」んだから。対して虚しく思うのは、柿に実りが無い今年の草刈り。虚しい訳は。

▲今年は桜が随分早く咲いた。燕の飛来もこれまで早かった。しかしその後の天気は不順とは言われまいか。4月10日には雪が降った。11日は放射冷却で強い霜が降りた。

▲この霜がイケなかつたと言う。実際・俺の20数本の柿の木には、たった一つの芽も吹いてないんだよ。100%という被害は珍しいのかもしれないが、旧藤島町では長沼・八栄島と藤島では俺の柿がある地域と古郡で被害が大きいみたい。

▲木は生きているから芽は吹くと。だから、来年からの成り枝つくりをJAが指導すると言っからそれに努めよう。後で虚しく思われる事になるかもは、今やっている五輪の準備早く止るや。(石川)